

令和3年度 自己評価実践報告書

学 校 名 福島県立好間高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョン』について

前年度の学校評価結果に基づき、令和3年度の教育目標及び重点努力目標を協議し、全職員共通理解のもと「目指す生徒像」を実現するため各項目のねらいを下記のとおり確認し、4つの重点目標を策定した。

＜重点目標1＞ 「自らを律する力を鍛えます」

規律ある学校生活を送らせるために、全職員共通理解のもと指導体制を構築し、安全教育やあらゆる教育活動の中で徹底した生徒指導を実施し、基本的生活習慣の確立を目指す。

＜重点目標2＞ 「学ぶ力を鍛えます」

授業時数の確保、基礎学力養成問題集の有効活用、総合的な学習の時間の計画的運用により、基礎学力向上と家庭学習の習慣化を図る。また、組織を有機的に連携させ、各種資格取得の推進を図るとともに、計画的な進路指導を展開し進路実現を目指す。

＜重点目標3＞ 「心と身体を鍛えます」

部活動、生徒会・委員会活動、ボランティア活動、教科横断的な道德等を積極的に推奨し、生徒自らがそれらの活動の意義を実感・体験できる体制を構築する。また、国際交流にも参加させ、グローバルな人材と豊かな心を育成する。

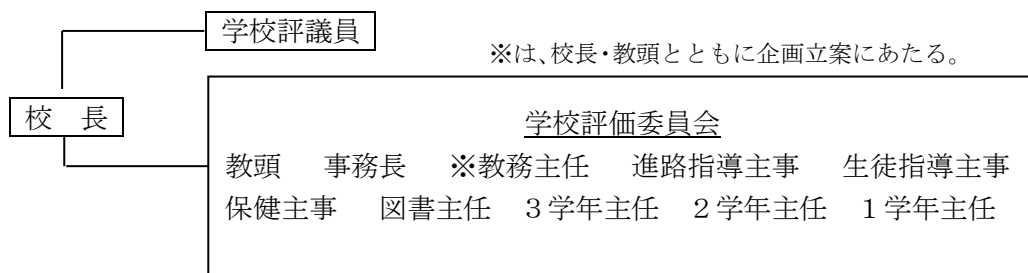
＜重点目標4＞ 「保護者や地域との連携で鍛えます」

学校・家庭・地域の三位一体となった教育活動を展開するため、教育活動の情報を積極的に地域に発信するとともに、諸団体との連携を一層密に相互協力体制の構築を図る。

2 校内組織体制について

校務運営委員会が学校評価委員会を兼ねる。教頭及び教務主任が企画立案を行い、事業が円滑に進行するよう評価事業の効率化を図った。

【組織図】



3 自己評価年間計画について

- (1) 令和3年度学校評価事業計画
- (2) 好間高等学校における学校評価システム
- (3) 自己診断カード
- (4) 評価のねらい

- ① 学校評価の概念が、学校を外部に開くことであることから、自己評価や外部評価をとおして、学校を不断の改革・改善の緊張感の中に置くことができる。
- ② PDCAサイクルを、学年・部等の校務分掌や自己の授業実践の中で取組み、組織力や自己変革への意欲の高揚を図る。

Ⅱ 評価結果の概要

1 実施方法等

項 目	年度末評価			
	実施部署	評 価	実施方法	コメント
生 徒	学校評価委員会	4段階評価(A～D)	自己診断カード	生徒の実態と課題を把握し改善へ向けた方策等の資料とした。
教 職 員	学校評価委員会	4段階評価(A～D)	自己診断カード 校務分掌ごとのアンケート	教職員の意識改革と意識向上実現へ向けた一助とした。
保 護 者	学校評価委員会	4段階評価(A～D)	アンケート	自由記述欄も併用し、保護者の学校に対する期待や要望の把握に活用した。
学校評議員	学校評価委員会	意見聴取等	評価書	地域社会が本校に寄せる期待や評価、さらに本校が目指す教育活動について明確に把握することができた。

2 アンケート及び回答数

		中間評価のためのアンケート			年度末評価のためのアンケート		
		対象者	回答数	割合(%)	対象者	回答数	割合(%)
教職員		20	19	95.0	20	20	100
教職員以外	生徒	207	202	97.5	200	196	98.0
	保護者				200	179	89.5
	学校評議員				3	1	33.3

アンケートの回答率は、生徒（長欠者数名）・教職員ともに100%に近くなった。また、保護者については、平成22年度に年度末のみ実施で目的が充足できることを確認したため、年1回の実施となっており、本年度の保護者からの回答率は89.5%と、昨年度（88.6%）とほぼ同じとなった。アンケートによる保護者の意見を反映させ、家庭と連携しながら、よりより学校づくりを実践したい。

3 評価基準について

評価基準	A	B	C	D
教 職 員	大変優れている	やや優れている	やや劣る	劣る
生 徒	とてもそう思う	そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
保 護 者	大変良い	良い	あまり良くない	良くない

評価基準は、教師及び生徒による自己診断カード及び保護者のアンケートにおいて、目標達成を客観的に段階評価し、新たな目標設定をするための指標となる。4段階評価は本校の現状分析には妥当性があり、傾向を概ね的確に捉えることができている。

4 年度末評価のまとめ

(1) 年度末評価実施の目的、意図

- ① 教職員、生徒、保護者が、それぞれの立場から1年間の教育活動を評価し、自己評価の客観性・透明性を高め、開かれた学校づくりに努める。
- ② 学校、家庭、地域が一体となり現状把握と課題解決へ向け共通理解を深め、様々な視点から検証し学校運営の改善を促進する。
- ③ 学校が、自らの教育活動や学校運営について、継続的に組織的な改善を図り、学校評価の実施と結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、教育活動全般において、保護者や地域等から理解と参画を得て、その連携・協力による学校づくりを進める。

(2) 年度末評価結果の分析及び結果概要

- ① 年度末評価・反省（学年・部・教科）
- ② 教員自己診断カード集計結果
- ③ 生徒アンケート（最終）、保護者アンケート集計結果

(3) 重点努力事項に対する達成状況等（学校経営運営ビジョンの①～⑯に対しての反省）

< 1 自らを律する力を鍛えます >

① 学びの環境

- ・古い進路指導関係の資料を処分し、新しいものにアップデートした。（進路指導部）
- ・いわき地区図書委員連合会の事務局を担当し、その責任を果たした。貸出について景品の抽選を行うなど利用者が増加した。（図書部）
- ・図書館だよりは予定通り発行できたが、担当クラスによっては締め切りに遅れることもあった。（図書部）
- ・授業その他での図書室の活用が見られたが、利用の予約等で周知が図られていなかった。（図書部）
- ・図書室で保有する教材等の一覧を作成し、周知するなどの広報活動は不十分であった。（図書部）

② 服装あいさつ

- ・指導に時間がかかるものの、少しずつではあるが、改善する意識が高まっている。生徒の問題行動に対応するためにも、生徒指導部の配置の増員も必要である。（生徒指導部）
- ・服装の再検査を受ける生徒は決まっている。学年指導により改善されるところが多かった。（生徒指導部）

③ いじめの絶無

- ・携帯電話の使用に関して、個人情報の取り扱いについての意識が甘く、改善に努める必要があった。（1年）
- ・担任、副担任だけではなく、生徒指導部も協力して新入生の中学校全てを訪問し、情報の共有をした。（生徒指導部）
- ・各学年の情報共有があり、指導に役立てることができた。（生徒指導部）
- ・養護教諭、SCと学年の連携が強化できた。いじめアンケートを改善した。（生徒指導部）

④ 交通事故防止

- ・自転車事故が数件あり、保険加入を徹底したい。警察との連携に努めた。（生徒指導部）
- ・3年生の自動車学校入校時に保護者会を実施して、届け出を徹底した。（生徒指導部）

< 2 学ぶ力を鍛えます >

⑤ 授業態度意欲

- ・大半の生徒が真剣に取り組んでいたが、2年次よりも取り組みが不十分な生徒が数名いた。（3年）
- ・基礎学力養成テストは全体的に積極的に取り組んでいる者が多かった。しかし、一部の男子生徒で授業に集中できていない者がいた。（2年）
- ・大多数の者は良好である。しかし少数ではあるが集中力にムラのある生徒も見受けられる。（1年）
- ・基礎学力養成テストへの取組の差が見られた。成績上位者と不合格者が毎回ほぼ同じという状況であった。（教務部）
- ・図書室の利用者が増加した半面、図書室内での飲食や声を出すなどマナーの守れない生徒も見受けられた。（図書部）

⑥ 学習習慣

- ・進学を希望している数名の生徒は家庭学習が定着しつつある。提出物については、成績不振の者に多く未提出者がいた。（2年）
- ・中学校時の不登校傾向を改善できない生徒が多く見られ、欠席に関する指導が不可欠であった。（1年）

⑦ 基礎学力

- ・ステップに取り組む姿勢および結果は良好であった。（1年）
- ・日常の業務にしっかり取り組むことにより、外部での研修が活きるという考えのもと、自己向上につながる（お互いのスキルアップにつながる）情報を提供しあう場を自然な形で設定する努力が必要である。校務運営システムは前年よりも定着し、業務を効率よく行うことができる部分も多々ある。（教務部）
- ・日常の業務に取り組む中で、キャリアや年齢に関係なく、お互いに参考にすべき点があれば、自分自身の向上（スキルアップ）につなげていけるような環境（雰囲気）づくりに努めなければならない。（教務部）
- ・進学希望生徒を中心に継続的に課外を行った。（進路指導部）

⑧ 進路意識

- ・進路指導部及び保護者と連携しながら、生徒個々の進路希望に応じた取組ができた。（3年）
- ・少数ではあるが、積極的に上級資格に挑戦し、資格取得を果たすことができた。（3年）
- ・総合的な探究の時間やLHR、政治経済の授業等を活用し、4月から成人となるに必要な知識や課題について考えさせることができた。（3年）
- ・上級学校の学校説明会やオープンキャンパスに参加する生徒が多くなっている。進路ガイダンスを通して少しずつではあるが進路意識は高まってきている。（2年）
- ・まだまだ資格取得に積極的に参加しているとは言い難い。今後も受験するように促していきたい。（2年）
- ・インターンシップを通して、自分の適性に関する意識を持ち始め、進路意識が向上しつつある。（1年）
- ・各学年や各部による企画（進路ガイダンス・交通安全教室等）などを総合的な探究の時間に実施し、生徒自身の「気づき」や「考察」などにつなげる機会を設定した。（教務部）
- ・令和4年度入学生からの新指導要領に対応した教育課程を編成した。個別指導については、進路希望に応じた形式で該当教科の担当者が実施している。（教務部）
- ・学年によって進路指導室の利用方法が異なっていた。（進路指導部）
- ・小型車両、介護初任者研修に参加した。（進路指導部）

- ・3年生には全職員による就職、進学面接指導を行った。また個別指導も充実させた。(進路指導部)
- ・1学年のインターンシップでは、細かく計画をたて指導した。また先輩の話を聞く会や進路実現への道を実施し、進路意識の高揚を図った。(進路指導部)

＜3 心と身体を鍛えます＞

⑨ 思いやりの心

- ・球技大会、ミニ文化祭等の学校行事に積極的に参加し、概ね良好であった。(3年)
- ・様々な活動を通して、集団生活における協力体制の大切さを理解させることに努力し、概ね達成できた。(3年)
- ・ミニ文化祭等の学校行事には積極的に参加していたが、部活動への参加者が少なかった。(2年)
- ・日々の清掃活動や学校行事をとおして奉仕の精神を育成しているが、人間関係の構築の過程において自己犠牲が必要であることを認識させる必要がある。(1年)
- ・生徒会行事に積極的に取り組む姿勢が見られたが、意欲の向上までには至らなかった。全職員で協力をする体制が必要である。(生徒指導部)

⑩ 心の鍛錬

- ・インターンシップにおいても、挨拶やマナーが十分に身につけていない生徒が見られた。普段の指導を継続し、進路ガイダンスのマナー講習会を有効に活用したい。(1年)

⑪ 身体の鍛錬

- ・積極的に部活動に参加したいという生徒が減少傾向にある。(1年)

⑫ 主体性の向上

- ・修学旅行コース別研修の調査等をまわりと協力しながら行っていた。また、当日は生徒が時間どおり行動したので、スムーズに行程を進められた。また、大きな事故や問題もなく有意義なものとなった。(2年)
- ・保健指導は授業での指導とともに、保健室においても個別に行い、生徒一人ひとりが自らの生活を見つめることを目標に指導を行った。(保健厚生部)
- ・避難訓練等により、生徒の防災意識を高めることができた。火災や地震など常に安全を意識した行動をとれるように今後も継続した取組をしていく。(保健厚生部)
- ・日々の清掃等を通じて校舎内外の美化に努めることができた。(保健厚生部)
- ・コロナ禍ではあったが、感染予防に注意しながら、いわきの街をきれいにする運動に参加できた。生徒が地域の美化に目を向ける大きなきっかけとなった。(保健厚生部)

＜4 保護者や地域との連携で鍛えます＞

⑬ P T Aの充実

- ・今年度もP T A総会は書面決議となったが、文書によりその周知を図った。P T A活動協力に関するアンケートを行い、参加を呼びかけた。(教務部)
- ・あいさつ運動を年間計画どおり6回実施できた。(教務部)
- ・保護者と担当教員との協力でP T A会報の作成に取り組んだ。調査広報委員会への出席者が少ないので、出席者数を増やすための工夫が必要である。(教務部)
- ・いわき地区の調査広報委員会の事務局を担当し、その運営を無事終了した。(教務部)
- ・今年度も秋に豚汁サービスを実施できずにジュースを配布する等の代替を行った。(教務部)

⑭ 保護者との連携

- ・進路だよりを定期的に発行することで、必要な情報を適切に提供することができた。(進路指導部)

- ・3学年の保護者対象の進路ガイダンスを行い、ほぼ全員の保護者に進路情報を周知できた。（進路指導部）
- ・健康診断や歯科検診など予定どおり実施することができた。事後措置については今後とも力を入れていく。（保健厚生部）
- ・感染症予防のための環境整備に力を入れた。今後も予防意識を高める指導を継続して行っていく。（保健厚生部）
- ・保健だよりの作成や健康管理表などを用いて、基本的生活習慣の確立に努めることができた。しかし、個々の基本的生活習慣の確立という面ではまだ難しい部分もある。（保健厚生部）
- ・消防署と連携し、学校消防隊の任務等を確認することができた。（保健厚生部）

⑮ 評議員・地域

- ・同窓会事務局と連絡を取りながら、「同窓会入会式」等の関係行事へ対応した。（教務部）
- ・今年度も好間・三和方部連合PTAの球技大会は中止になったが、会計監査担当校として運営に協力した。（教務部）
- ・各行事の様子や感染症対策について、適宜、HPの情報を更新した。また、緊急連絡のメールについても有効に活用できた。（教務部）
- ・中学生体験入学を昨年同様の形式で、感染症対策をしながら、午前と午後に分けて実施した。（教務部）

⑯ 不祥事の絶無

- ・年間13回の服務倫理委員会を実施し、不祥事防止に努めた。本校からの不祥事はゼロであった。

Ⅲ 広報の概要

1 目的や意図

好間高校の状況を保護者の皆様や地域の皆様、更に多くの方々に広く知っていただくために、ホームページによる情報公開、更にはPTA会報、学級通信等を発行する。

2 実施計画・及び実施状況

- （1）ホームページ：行事ある毎に随時更新する。入試情報や学校の情報をリアルタイムでお知らせした。
- （2）PTA会報：保護者との合同制作である。11月と12月と1月に定例会を行い作成し、3月1日の卒業式に発行する。
- （3）学級通信：今年度は発行していないが、来年度はクラスの出来事が保護者に伝わるように、具体的な事例を紹介していきたい。
- （4）進路だより：キャリア教育の方針に基づき、生徒の進路意識の向上のため発行した。
- （5）図書だより：新着図書の紹介等を全校生徒に周知するため、適宜発行している。
- （6）保健だより：感染性となる疾病予防や季節に応じた健康話題を掲載して毎月発行している。

3 配付対象、配布時期、配布方法等

- （1）配付対象：全生徒と保護者
- （2）配付時期：PTA会報は3月1日、保健だよりは毎月発行した。その他は不定期であった。

4 実施してみたの反省点等

HPは行事ごとに係が更新した。的確に情報発信できていると感じる。地域の学校として色々な手段で学校の取組を発信することは有意義ではあるが、あまり発信手段を広げすぎないようにしたい。

紙媒体での広報は限界があるので、より電子媒体での取組を進める必要があると感じている。

IV 次年度へ向けて

1 評価結果の特徴、自己評価実践の評価等

生徒、保護者からのアンケート結果は、概ねA（大変良い）、B（良い）が多く、決して悪い評価ではない。現在行っている教育活動をより効果的なものにしていくことに尽きる。時間は限られているので、その中でスクラップ&ビルドを進めていきたい。

2 自己評価全体の次年度の取組について（ビジョン・組織・年間計画での反省点に基づいて）

自己評価全体は次年度も継続して行い、推移を確認していく。また、細かい部分については生徒の状況に応じて変更を検討する。

地域に根ざした学校としての「チーム好間高校」として、寄せられた意見を少しでも学校運営に反映できるようにしていく。

3 次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など

今年2月、令和7年度にいわき総合高校と統合することが決まった。学校評議員からのご意見を伺いつつ、さらに特色ある学校を模索していかなければならない。統合に向けての準備もさることながら、現在在籍している生徒への学習環境の提供を第一に考え、好間高校としての「まとめ」の時期になると考える。

4 終わりに

コロナ禍での生活も2年を経過し、学校でも適切な対応が明確になりつつある。窮屈な生活が当たり前となったが、学校運営は窮屈であってはならない。本来の授業や学校行事を実施し、生徒に意義ある学校生活を送らせたい。そのために、学校内だけでなく、「開かれた学校」とすべく、関係機関や地域資源をより活用して教育課程を展開していきたい。